

どこまでも悪質 場当たりのな 拡張工事

7月26日、成田空港会社は、市道閉鎖で農業道路を奪った農家の畑を、鉄板フェンスで囲い込むという暴挙に出ました。農家が、空港会社を相手にした裁判で千葉地裁に在る留守の間を狙ってのことでした。

フェンスで囲まれた畑は、成田空港の構造的な欠陥の一つの「へ」の字誘導路にある畑です。空港会社はこの畑を強引に取り上げようと裁判を起こす一方で、古くからの里道を潰したり、鉄板フェンスを張って営農を妨害して、屈服させようとしているのです。

●滑走路1本になんと3本 310億円の無駄遣い！

この日を境に、空港会社は新たな誘導路の工事に入りましたが、着工を公表していません。

それもそのはず、この誘導路は暫定滑走路とターミナルを結ぶ3本目。110億円かけて昨年7月から使い始めた2本目の誘導路は、すでに使い捨て。新たに200億円の巨費（茨城空港建設費用とほぼ同じ）を投じるのですから、自慢できることではないのです。（上図参照）

空港会社のやることは、どこまでも場当たりの悪質です。滑走路1本に3本の誘導路を造ること自体、住民の暮らしを踏みにじり無理と無謀を重ねてきたからです。

農地を強奪し、騒音下の住民を苦しめる暫定滑走路は、閉鎖すべきです！

（8月18日）



【写真上】前面にガードマン、後ろに機動隊を配置して農地の囲い込みを強行（7月26日 天神峰）

【写真下】このゲートの奥で誘導路工事を進めている

2本目110億円、半年で使い捨て！

3本目の誘導路を密かに着工！